

ケースC-1

### 失業等給付の収支試算

( 支出が現状 (19年度実績) から悪化し、過去最悪水準へ推移するケース )

(単位：億円)

	19年度 (実績)	20年度 (試算)	21年度 (試算)	22年度 (試算)	23年度 (試算)	24年度 (試算)	25年度 (試算)
収入	22,214	21,033	17,844	20,797	20,654	20,408	25,915
支出	14,917	17,298	20,307	22,814	25,208	26,552	28,699
差引剰余	7,297	3,734	▲ 2,463	▲ 2,017	▲ 4,554	▲ 6,145	▲ 2,784
積立金残高	48,832	52,566	50,103	48,086	43,533	37,388	34,604
弾力倍率	4.51倍	3.88倍	2.75倍	2.34倍	1.78倍	1.37倍	1.28倍

	19年度 (実績)	20年度 (試算)	21年度 (試算)	22年度 (試算)	23年度 (試算)	24年度 (試算)	25年度 (試算)
保険料率	1.2%	1.2%	1.0%	1.2%	1.2%	1.2%	1.6%

(注1) 収入は、19年度は決算額、20年度以降は1000分の1当たり保険料 (19'実績ベース) × 保険料率を主として算出しており、支出は19年度は決算額、20年度以降は前年の失業等給付費に4~9年度までの給付伸率を乗じて算出し、19年度の支出額と失業等給付費の差を同額と仮定して加えている。

(注2) 保険料率は21年度は1.0%、22年度以降は現行の料率に戻ると仮定して計算している。また、1000分の1当たり保険料は、20年度以降▲2.2% (11~15年度平均値) ずつ減少すると仮定して計算している。